

無線システムの進展の基盤となるアンテナ・伝搬技術 論文特集の発行にあたって



無線システムの進展の基盤となるアンテナ・伝搬技術論文特集編集委員会

委員長 菊間 信良

近年、無線システムにおいては、移動通信や無線LANなどの従来検討されているシステムのほかに、センサ応用、電力伝送をはじめとする多種多様なアプリケーションが進展してきている。それらの無線システムを実現するには、端末アンテナの小形化技術や高速通信のためのマルチアンテナ技術など、システムごとに異なる多様な要求に応えることのできる、アンテナ・伝搬分野の新たな基盤技術の研究開発が不可欠となる。

本特集では、このような背景のもと、アンテナ・伝搬関連分野における要素技術及びシステム技術の設計、解析並びに測定の最新の研究成果を中心に、無線システムの進展の基盤となる幅広い分野で論文を募集した。本特集は、いわゆるアンテナ・伝搬関連特集(以後、AP特集と呼ぶ)の11号目にあたる。この一連のAP特集は、アンテナ・伝播研究専門委員会が中心となって企画し、和文論文誌Bの毎年9月に発行しているものである。

今回も、昨年のAP特集に引き続き、アンテナ・伝播研究専門委員会をお願いをして、研究会推薦論文制度を積極的に活用して頂いた。その結果、本特集へ投稿された論文数は、31編(レター4編を含む)に及んだ。このうち、研究会推薦論文制度を利用した投稿は7編あり、レター1編も研究会で推薦されたものであった。昨年のAP特集よりも推薦制度を利用した投稿が倍近くに増え、大きな成果といえる。厳正な査読の結果、

最終的には論文19編(レター4編を含む)を採録することとなった。これに招待論文4編を加えた計23編が本特集に掲載されている。招待論文は、いずれもアンテナ・伝搬分野の第一線で活躍している研究者の方々をお願いをした。一般論文とともに最新技術の動向が理解できるものと考えている。本特集のもう一つの特徴として、「アンテナ考学」のコラムを5編掲載している。2010年のAP特集以来の企画で、アンテナ・伝播研究専門委員会の委員長、副委員長経験者の方々に執筆をお願いした。日ごろの思いを個性豊かにつづって頂いたので、併せてお楽しみ頂ければ幸甚である。

最後に、本特集を発行するにあたり、御投稿頂いた方々、「アンテナ考学」に御寄稿頂いた方々、論文査読に御協力頂いた査読委員の方々、企画及び編集に御尽力頂いた編集委員各位、並びに本会事務局の方々に深く感謝申し上げます。

きくま のぶよし
菊間 信良 (正員：フェロー) 昭57名工大・工・電子卒。昭62京大大学院博士課程了。同年同大助手。昭63名工大助手、平2同講師、平4同助教、平13同教授、現在に至る。工博。アダプティブアレー、到来波推定、無線電力伝送の研究に従事。第4回電気通信普及財団賞受賞。平18本会論文賞受賞。平19～20本会和文論文誌B編集委員長。平21～22本会通信ソサイエティ副編集長。平23～24本会アンテナ・伝播研究専門副委員長。平23より本会ComEX編集委員長。著書「アレーアンテナによる適応信号処理」、「アダプティブアンテナ技術」など。

無線システムの進展の基盤となるアンテナ・伝搬技術論文特集編集委員会

委員長	菊間 信良
幹事	広川 二郎・西森 健太郎
委員	大館 紀章・北尾 光司郎・久我 宣裕・笹森 崇行
	高橋 徹・藤元 美俊・前山 利幸・道下 尚文
	山口 良